

## 相馬市農業協同組合（JA相馬市）



代表理事組合長	横山卓三	役員数	23名
所在地	〒976 相馬市中村 一丁目15-5	理事	18名（うち常勤 2名）
	☎0244-36-2101	監事	5名
設立年月日	昭和40年10月1日	職員数	138名（男94名 女44名）

### I 地区の概況

当地区は、浜通り北部に位置し、東は太平洋に面し、南は鹿島町・飯館村に、西は霊山町に、北は新地町・宮城県丸森町に接している。

JR常磐線と国道6号線が南北に通り、日立木駅と相馬駅がある。また国道113号と115号が市中心部から新地町を通過して丸森町へと霊山町を通過して福島市に通じている。

西は阿武隈高地で、東は浜通り低地である。低地は沖積層と新第三紀層からなる。新第三紀層は丘陵をなし、西の山麓では標高200m近いが東に向かって次第に低く標高20～50mの海岸

段丘となる。これらの丘陵は宇多川、地藏川、日下石川等によって浸食されほぼ東西に延びている。この丘陵間に水田が開け集落が点在する。

東部の海岸に松川浦漁港と相馬港がある。相馬港はもと原釜港と称し江戸時代の東回り航路の港であったが、現在は3万トン級の船舶が接岸できる国際港で周辺は臨海工業地区として開発されている。松川浦は小松島ともいわれ、潮干狩・海水浴等が楽しめる県立自然公園である。また、市中心地の中村は江戸期相馬氏の城下町で相馬城跡があり相馬野馬追が有名である。

## Ⅱ 50年のあゆみ

### 1 地区農業の変遷

当市は宮城県と接する平坦地と、山間部、更に沿岸部とからなり耕地面積の72%が水田を占める水稲単作地帯である。

市内の農業は、日本経済が高度成長期を迎える中で戦後の苦しい食糧難の克服と作れば売れる時代に突入し、更に、昭和30年代から続いた経済成長によって開田による水稲作付面積の拡大、品種改良、農薬開発、技術革新等による生産増加と豊作等とも相まって一気に米の大増産がはかられた。米価に於いては15%（39年・48年）近い値上げが図られ、42年から続いた3年連続の豊作によって大量生産大量取り扱いが行

われ、水稲を基幹作物とする農家経済は僅かながら潤いを得た。

増々生産意欲の向上と安定経営の軌道に乗りかけた44年から米の過剰生産、日本の食生活の変革の下に総合農政の名のもと稲作転換制度が導入され、予約限度制による買い入れ制限が実施された。米作を主体とする組合員農家にとって大打撃となった。

米の大量生産時代に入って過剰米・米価高騰による食管制度が議論されはじめ、良質米の生産と米プラス畜産・果樹・野菜等の複合経営を目指し団地化の振興を図った。大野、磯部を中心に肉牛生産、磯部、大野、八幡の梨・りんご等の果樹栽培、また、八幡を中心とした全域に

図表1 地区農業の変遷（農業センサスより）

項目		年次					
		25	35	40	50	60	2
総農家戸数（戸）		3,477	3,733	3,576	3,217	2,723	2,120
うち 専業（戸）		1,795	1,511	1,164	267	223	166
I種兼業（戸）		1,077	1,279	1,166	1,313	723	249
II種兼業（戸）		605	943	1,246	1,637	1,777	1,705
経営耕地面積（ha）		3,737	4,307	4,204	4,105	4,026	3,696
うち 田（ha）		2,680	2,912	2,923	3,194	3,228	3,052
畑（ha）		838	1,147	975	610	523	447
樹園地（ha）		216	248	304	300	274	196
収穫面積	稲（ha）	2,625	2,759	2,890	3,081	2,919	2,548
	麦類（ha）	465	796	299	5	23	48
	野菜類（ha）	280	248	223	175	148	165
	果実類（ha）	22	60	92	71	73	88
	飼料用作物（ha）		167		169	275	193
	たばこ（ha）	46	41	53	32	34	12
飼育頭羽数	乳用牛（頭）	38	501	801	927	1,082	1,055
	肉用牛（頭）	1,337	1,545	1,247	1,172	1,218	986
	豚（頭）	102	284	1,569	1,757	2,266	3,156
	にわとり（千羽）	6	19	17	17	34	28
	ブロイラー（千羽）				518	995	856

（注）ブロイラー 50年以降は出荷羽数

きゅうりを主体とした野菜作付けが行われた。

食糧難時代を担ってきた一般穀類及び小畜産物、特用作物は農家形態の変化、農業の多様化に伴って現在は皆無の状態である。合併前後に多かった養鶏農家と養蚕、葉たばこ農家も皆無に近い現状である。複合経営を目指し振興を図ったはとむぎ栽培は製品の二次加工によってお茶、味噌として加工販売が僅かに継続している。

一方相馬地域開発が進行し58年末迄に約300haの一集落農地が相馬港工場用背後地として買収され離農或いは代替地による遠隔地農業を余儀なくされ専業農家の低落、兼業化へと拍車

が掛かってしまい、農業後継者不足を来たし専業率8%弱まで落ち込んでいる。

農地の集約化、作業の省力化促進のため実施された大規模圃場整備事業は担い手不足等も手伝って農地の受委託が促進され今後も増加の様相を呈している。

農産物価格の低迷、農畜産物の輸入自由化は幾多の困難、試練を経て克服し邁進して来た農業経営と農協経営に多大な影響を及ぼしており、同時に予期出来ない冷災害を常時視野に置くことも忘れられない。

図表2 主な勘定と事業の推移

(単位：千円、共済：百万円)

項目		年度					
		24	30	40 (合併年度)	50	60	5
正組合員戸数(戸)		3,294	4,521	3,447	3,163	3,053	3,080
准組合員戸数(戸)		204	87	426	697	672	688
資 産	余 裕 金	17,215	80,248	398,962	1,792,059	7,197,122	11,866,380
	貸 出 金	10,799	129,137	607,122	2,745,634	5,102,623	3,891,210
	その他流動資産	10,649	64,857	225,079	1,148,481	1,976,970	1,763,139
	固 定 資 産	5,153	26,720	160,068	309,962	539,907	1,142,721
	外 部 出 資	706	11,461	23,742	63,593	168,438	280,443
負 債 及 び 資 本	貯 金	45,380	224,468	1,016,813	4,859,394	10,624,026	14,367,240
	借 入 金	3,814	49,381	157,209	259,324	1,521,132	544,099
	そ の 他 負 債		14,708	148,931	600,387	2,024,880	2,601,587
	出 資 金	1,797	25,487	87,740	257,194	409,910	623,420
	積 立 金	208	680		43,721	290,054	780,023
	剰 余 金	4	-2,301	4,280	39,709	115,058	27,524
主 な 事 業 実 績	販 売 取 扱 高	111,667	390,215	1,118,629	4,163,625	7,422,002	8,954,156
	うち 米 穀		356,656	1,014,888	3,292,628	3,876,250	1,172,577
	青果物		3,195	11,741	203,134	360,002	338,097
	畜産物			39,039	296,013	396,561	615,902
	畜産物		23,482	14,338	371,850	2,604,020	6,817,029
	購 買 取 扱 高	24,200	93,625	254,473	1,750,947	2,487,903	2,510,506
	うち 生産資材		83,097	234,011	1,238,260	1,726,262	1,835,594
	生活資材		10,528	20,462	512,687	761,641	674,912
	長期共済保有高			2,001	20,300	125,687	198,338

(注) 合併以前の年度は合併参加農協の合計

24年度は資料不備のため飯豊村農協と磯部村農協を含まない

## 2 経営の推移

昭和23年に農業会の資産を各々引き継いで1町7村に農業協同組合が設立されるが、終戦後復興期の経営基盤は弱く再建整備法の適用を受けながらの復興であった。30年代にはいり、日本経済の回復基調と相まって事業の取扱いは増加傾向を示したものの欠損金を解消するには至らなかった。

40年代に入り高度経済成長期を迎え、市との連携による生産振興計画と営農指導体制の強化によって40年末には剰余金を計上するまでに至った。市内農協の合併によって、各分散事業の統一、集出荷体制の確立、貯金共済事業に対する推進体制の強化、人事の刷新等によって順調に事業が推移し、59年末には貯金残高100億円を突破し、長期共済保有高では72億円に達し、60年代における剰余金は恒常的に年間1億円以上の計上が出来た。同時に内部留保による諸積立金の充実によって財務基盤の強化と経営の安定を図ってきた。その間度重なる冷災害、干害等にも見舞われるが組合員、組織の連携対応によって克服し事業の伸長を期してきた。

順調に進展した事業も減反政策の強化、農畜産物の自由化、更に金融自由化と不安要素が高まる中で、経営の活性化、省力化が求められるようになり、生活部門においては店舗事業の廃止を行う一方、婚礼事業への本格的取り組みの強化を図ると共に衣食住活動にも積極的に取り組んで、組合員の健康で豊かな生活を推進している。生産販売倉庫事業においては、フレコンと紙袋の併用可能な低温農業倉庫の新設による米品質管理の強化、果樹選果場のコンピューター導入による品質規格の統一出荷、野菜集出荷施設の充実による迅速集出荷体制の確保、集中

購買事業の採用による在庫管理の徹底、等々の経営改善と合理化につとめ、組合員を主体とした事業の展開をはかっている。

## 3 農業協同組合の設立

J A相馬市は中村町農業協同組合、大野村農業協同組合、飯豊村農業協同組合、八幡村農業協同組合、山上村農業協同組合、日立木村農業協同組合、磯部村農業協同組合として各々農業会の資産を受け継いで昭和23年に設立された。ただ、山上玉野組合村農業会は分離して山上村農協と玉野村農協とが設立されたが、玉野村農協は31年に解散している。

## 4 合併の経過

昭和29年に町村合併により市政が施行され相馬市が誕生し、同年各農協とも名称変更した。40年10月1日市内7農協が合併し現在に至っている。

市内を大別すると水稻栽培を中心とする平坦部と、林産物・養蚕、葉たばこ等複合経営する山間部、農業・漁業を兼業とする沿岸部とに区別できる。いずれも農業会の資産を継承したとはいえ経営基盤が弱く本来の農協機能を発揮出来ず再建整備の指定を受ける農協も現れ、31年2月には玉野村農協は解散した。

不安定な経営のなかで生産物の付加価値を高めるべく組合員の要望に沿った加工事業を取上げ、精米、製粉、製麺、製ぱん工場と牛乳処理工場を各々の農協が独自に地域の特性を生かし組合員と密着した事業展開を図って、経営の安定に努めてきた。

農協合併助成法の公布を機に合併機運が高か

まつた37年には市内7農協の組合組織によって有線放送事業を開始し情報伝達サービスと無電話地区の解消を図ったところ4000余戸の加入者が得られた。また、家庭燃料取り扱いの拠点としてスタンドの建設によって全ての油種とガス取り扱いも合併を前提に開始した。勿論貯金、共済、経済部門についてもそれぞれの農協において積極的に事業展開している。

40年10月1日市内7農協の経営合理化と組合員の安定経営を目標に大同合併し、県下屈指の農協として発足した。

## 5 経営の改善と多彩な事業展開

同時にいち早く取り組んだのは自己資本の造成であった。増資運動を年次計画によって協力

要請し、合併時の8700万円に対し50年代には2億5700万円と3倍の増資によって財務の健全化を期す事が出来た。

一方信用・経済事業においては、合併時10億円の貯金と購買取扱高2億5000万円の取扱いであったが、40年代後半からの列島改造によって日本経済が回復しその間冷災害等にも見舞われたものの組合員個々の営農意欲によって回避し、59年には貯金残高100億円突破できた。購買事業においては組合員の生活に密着した事業としてAコープ店を48年に開設し、55年・56年には5億1000万円の取り扱いを行っている。

共済事業についても58年末長期保有高1000億円の大台に達した。

また、スタンド売り上げも100ℓの仲間入りを果たしている。

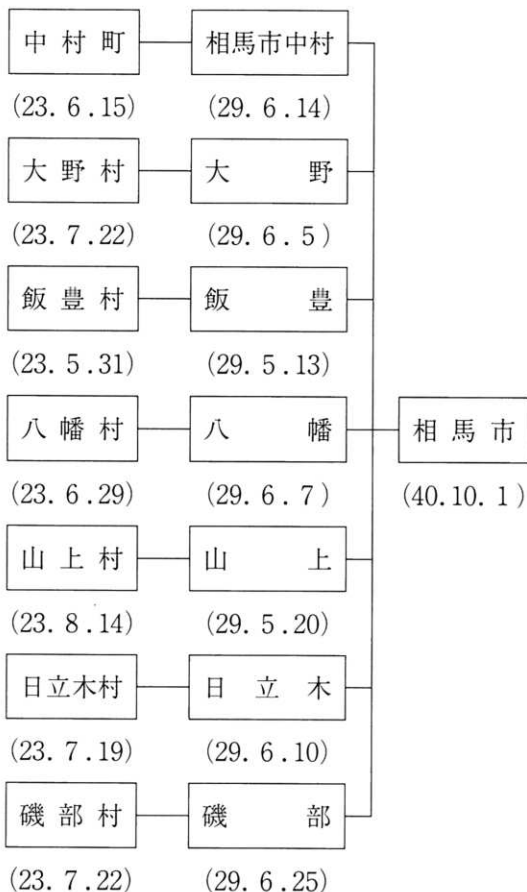
44年より特産物として取り扱っている成田食品のもやし類は生産工場、系統との三位一体によって平成5年度末70億円近い取り扱いを行っており生産販売に占める割合は大きい。

これら事業の伸長は組合員の組織意欲の高揚と職員研修による意識改革と意欲向上に他ならない。

## 6 施設・設備の拡充

農業会から引き継いだ施設はいずれも老朽化

図表3 合併等の経緯



図表4 合併参加農協の概要

組合名	組合長名	組合員数	役員数	職員数
相馬市中村	酒井 忠	1,171	11	17
大野	今野 豊	793	12	18
飯豊	山田 登	943	10	15
八幡	天野 利	652	10	13
山上	佐藤 忠義	310	12	6
日立木	太田 宗慈	452	13	13
磯部	菅野 貞雄	610	10	12



甚だしく改築に急を要したが、低迷する経済状態と経営基盤の貧弱さから改築までには至らなかった。しかし30年代後半に入り景気の回復と系統組織の強化を図るべく合併機運の高まった38年から40年合併前まで、日立木・大野・磯部農協が事務所を新築した。合併後の41年には組合員4000余名の結集の拠点として本所事務所建築に着手し、42年4月地下1階地上4階の事務所を完成し、1階の一部をAコープ相馬店としてオープンした。

後に、店舗経営の充実と利用者ニーズに対応すべく48年に駅前に移築、食堂・理美容を併設した大型店としてオープンし、2階を後継者育成事業の一貫として結婚式場にも利用し年間最大120組以上の若いカップルが巣立っている。以降経営は順調に推移したものの、60年代に入り交通手段が電車から自動車に変わり、駅前が空洞化した地理的な条件と駐車場不足、大型スーパーの進出等によって61年閉店の止むなきに至った。

総合研修センターを61年に新設し、指導販売部門の集約事務所を設置して支所分散指導体制から集中専門指導体制へ移行し、組合員に対する指導の効率化と販売処理、生活改善の一元化を図った。同時に市農業管理センターの併設によって行政との一体指導体制に取り組んでいる。

果樹選果場のコンピューター化、野菜集出荷施設の新設によって、品質・規格の統一と厳選された農産物の迅速集出荷体制を図っている。

基幹作物である米は、生産過剰と食管理制度の見直し論の中で品質向上と良質米生産が要求され、45年には4万俵収容可能な準低温倉庫と平成3年には10万俵収容可能とする低温倉庫を新設し、保管管理の近代化と米集出荷体制の万全を期している。

第1次・第2次石油ショック時の燃料不足を踏まえ、再度繰返す事なく組合員への安定供給と燃料事業充実を図るべく国道沿線に南北2か所の大型給油所を新設しサービスを図っている。

農業就労者の高齢化、兼業化が進行している今日、農機具の果たす役割は大きく保守点検・事前整備が事故防止に不可欠であり、更に、自動車の皆所有時代に入り57年農機自動車サービスセンターを移転新設し、自動車民間車検場も取得しサービスの万全を期している。

組合員の農業資材は、各支所取扱いで対応していたが施設の老朽化と不良在庫解消、更に、組合員の利便性を考慮し、62年資材配送センターを新設し集中配送と在庫管理の徹底を図っている。

各支所事務所は、組合員の利用し易い集合の場として49年から改築を行い、58年まで全ての事業所・事業所施設を新改築した。合併時の姿はもうみられない。施設充実が組合員サービスの一手段として今後も必要事項であろう。

## 7 今後のJ Aの役割

農業の近代化が加速するなかで農家の後継者不足、就労者の高齢化、兼業化対策が急務である。市、J Aを中心とした地域農業振興計画等によって農業の活性化を図ろうとするも、抜けない日本経済の不況と農産物に対する輸入枠拡大、とりわけ米市場開放は農家個々の生活を脅かしている。

J A経営においても金融自由化、農生産物価格の低迷による減収によって経営悪化が必至である。

今後、J AはJ A基本理念を主として組合員を主体とした経営と組織再編が急務である。

## Ⅲ 年 表

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
<b>23年</b>		<b>39年</b>	
5.31	飯豊村農業協同組合設立	5.21	優良農業倉庫表彰 食糧庁長官賞(大野)
6.15	中村町農業協同組合設立	6.10	共済優績 全共連表彰(大野)
6.29	八幡村農業協同組合設立	6.12	共済優績 全共連表彰(飯豊)
7.19	日立木村農業協同組合設立	8.26	市内農協合併に関する懇談会
7.22	大野村農業協同組合設立	9.15	農協合併促進協議会設立総会
7.22	磯部村農業協同組合設立	<b>40年</b>	
8.14	山上村農業協同組合設立	2. 2	合併に関する地区座談会(～8)
8.31	玉野村農業協同組合設立	7.12	合併に関する部落座談会(～27)
<b>26年</b>	再建整備の指定を受ける(磯部)	8.15	合併臨時総会
<b>27年</b>		8.27	第1回設立委員会
5.21	貯蓄優績農林中金支店長表彰(大野)	10. 1	相馬市農業協同組合設立
<b>29年</b>	1町7村合併して相馬市誕生	11.29	婦人部結成総会
5.13	飯豊農業協同組合と名称変更	11.30	果樹部結成総会
5.20	山上農業協同組合と名称変更	<b>41年</b>	
6. 5	大野農業協同組合と名称変更	1.18	そさい部結成総会
6. 7	八幡農業協同組合と名称変更	1.28	生産組合長会結成総会
6.10	日立木農業協同組合と名称変更	2. 8	畜産部結成総会
6.14	相馬市中村農業協同組合と名称変更	2.12	農青連結成総会
6.25	磯部農業協同組合と名称変更	4.17	第1回通常総会
<b>30年</b>		5.30	系統利用優秀 経済連表彰
12. 6	玉野村農協知事命令により解散	5.30	共済優績表彰 県知事賞
<b>33年</b>		6.12	磯部支所事務所落成式
5.30	系統利用優秀島経済連表彰(飯豊)	6.18	八幡支所清水農業倉庫落成式
6.28	共済優績 全共連表彰(大野)	9.10	磯部果樹選果場落成式
10.22	農協大会 優良農協表彰(大野)	11.19	収穫まつり(桜ヶ岡小学校)
11.30	整備特別措置の指定を受ける(山上)	11.26	共済高額契約者招待(伊豆みかん狩り)
<b>34年</b>		<b>42年</b>	
11. 8	農協大会 優良農協表彰(飯豊)	1.31	九州旅行(～2.9)
<b>35年</b>		4.12	堆肥品評会
	優良農業倉庫表彰 全販連会長賞(大野)	4.18	本所1階にストア開店
5.31	系統利用優良 経済連表彰(日立木)	4.25	本所事務所落成式
6.30	共済優績 全共連表彰(山上)	9.16	中村支所本所事務所に移転
<b>36年</b>		12.26	理容所開店
5.30	系統利用優秀 経済連表彰(日立木・磯部)	<b>43年</b>	
7. 6	共済優績 全共連表彰(飯豊・日立木)	3. 7	稲作講演会
<b>37年</b>		3.25	大型農機具格納庫落成
	有線放送事業開始	4. 1	地区座談会(事業5か年計画)
9.12	共済優績 全共連表彰(中村・大野)	6.22	電化ショー(～23)
<b>38年</b>		7. 8	カラーテレビショー(～10)
5.21	貯蓄優績 農林中金理事長表彰(八幡)	9. 7	水稻増収競技会(坪刈り)
		10.13	京呉服展示即売会

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
<b>44年</b>		<b>53年</b>	
1. 7	中村支所松ヶ江取扱所火災発生	5. 23	共済優績 全共連表彰
3. 7	農業後継者研修階	5. 26	貯蓄優績 農林中金支店長表彰
3. 17	共済高額契約者招待旅行	5. 30	共済契約招待旅行（伊香保）
5. 26	早ばつ対策会議	6. 12	宮城沖地震発生 被害調査
5. 27	系統利用優良 経済連表彰	8. 10	農業大学開講（毎月10日）
8. 23	S S L P G貯蔵庫落成式	<b>54年</b>	
10. 6	和牛共励会表彰式	4. 2	市収納代理金融機関指定業務開始
<b>45年</b>		5. 23	共済優績 全共連表彰
5. 1	中央農業倉庫完成落成式	5. 24	共済契約招待旅行（上の山）
5. 28	系統利用優秀 経済連表彰	5. 30	共済契約招待旅行（上の山）
7. 29	大阪国際万博旅行団出発	6. 16	馬場野給油所落成式
<b>46年</b>		11. 20	組合長山田 登 全農副会長就任
3. 18	若妻会総会	<b>55年</b>	
3. 28	東京都町田市境川団地と連絡協議会発足	1. 28	水田利用再編対策事業推進協議会
6. 1	電算システム開始	2. 12	部落座談会（～28）
9. 30	東京都町田市境川団地直売実施	3. 3	組合長山田 登 急逝
<b>47年</b>		3. 10	組合長山田 登 告別式
5. 26	系統利用優秀 経済連表彰	4. 1	中村支所金融新店舗落成式
10. 19	農業機械銀行設立	4. 10	防霜対策本部設置
<b>48年</b>		5. 21	共済優績 全共連表彰
2. 19	相馬地方農政懇談会	5. 22	共済契約者研修旅行
2. 28	有線放送事業廃止	5. 27	共済契約者研修旅行
7. 17	くみあいマーケット相馬店開店	6. 24	ハト麦生産組合発足
11. 11	参事藤沢義美 急逝	6. 25	要求米価実現米価旗りレー
<b>49年</b>		7. 1	給油所 電算稼働
1. 23	花卉部会設立総会	7. 12	米消費拡大運動 八幡小おにぎり配布
8. 5	山上支所事務所落成式	7. 19	農産物集荷所完成
<b>50年</b>		8. 18	水稻いもち病一斉防除
5. 29	系統利用優秀 経済連表彰	8. 19	異常天候対策本部設置
9. 27	八幡支所事務所落成式	8. 24	農青連 親善ソフトボール大会
11. 19	合併10周年記念祝賀式	8. 30	米消費拡大運動 飯豊小おにぎり配布
<b>51年</b>		9. 26	冷害対策室設置
2. 27	稲作講演会	12. 24	暴風雪被害発生
5. 3	県政発展功績 知事表彰受賞	12. 29	冷害被害農家に救援米贈呈
7. 15	地区農政懇談会	<b>56年</b>	
12. 27	救援米83俵玉野地区に贈呈	1. 24	冷害克服農事講習会
<b>52年</b>		3. 25	共済研修旅行
5. 12	祭壇貸出業務開始	3. 28	苺後継者会設立総会
5. 26	貯蓄優績 農林中金支店長表彰	3. 30	共済研修旅行
6. 7	降雹被害現地調査・対策会議	5. 18	水田等冠水被害調査
7. 28	航空防除 初実施	5. 25	オンライン開通式
9. 27	米消費拡大標語コンクール	5. 25	系統利用優良 経済連表彰
11. 19	農協大会 優秀農協特別表彰	8. 25	飯豊支所事務所落成式
12. 26	役員と農青連との懇談会	9. 1	共済研修旅行



浜通り地方の農業協同組合

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
9. 3	台風15号被害調査	<b>61年</b>	
10. 3	役員・生産組合・農青連支部長合同会議	1.21	合併臨時総会
11.12	地域開発営農相談所開設	3. 1	副霊山農協を合併
11.18	健康活動功績 厚生連表彰	3.19	ハトムギ加工所落成式
<b>57年</b>		5. 1	第2給油所落成オープン
3.21	山田 登先生胸像除幕式	5.23	農義講演会 (21世紀の農業をどうとらえるか)
3.29	共済契約者研修旅行	5.27	系統利用優良 経済連表彰
5.26	系統利用優秀 経済連表彰	6. 5	旅行友の会旅行
7.12	しいたけ青年研究会発足	7.14	結婚相談所開設
7.28	農機・自動車サービスセンター落成式	7.20	農青連 ソフトボール大会
9.12	台風18号被害甚大	8. 5	台風10号水害被害調査
11.25	野菜集荷所落成式	9. 3	磯部果樹選果場施設落成式
<b>58年</b>		9.10	初乾燥調整講習会
2. 6	農青連後継者育成親善バレーボール大会	9.12	役員と農青連との懇談会
2. 7	東部支所事務所落成式	9.25	営農部事務所移転 (総合研修センター)
4. 9	防霜対策本部設置	11. 1	総合研修センター落成式
4.11	共済契約者研修旅行	11.15	第3回農協祭 (~16)
8.13	第2土曜日休業制実施	<b>62年</b>	
8.31	米乾燥調整講習会	1.30	資材配送センター落成式
9. 1	共済契約者研修旅行	1.31	婚礼見本市 (~2.1)
9. 5	役員と農青連との懇談会	2.27	農業振興フォーラム (~28)
9.17	農事講演会	3. 8	第1回若人の集い
9.30	年金友の会設立総会	5.17	早ばつ状況視察・雨乞い祭 (滝不動尊)
10.14	黒木支所事務所落成式	5.22	農業講演会 農業と暮らしを求めて (講師 鈴木 博 東海大教授)
12.13	健康増進活動	6.18	農業者年金協議会総会
<b>59年</b>		8.15	市盆踊りパレード参加
2. 7	年金友の会 健康講話	9.11	役員と農青連との懇談会
3.28	山田 登農業振興基金運営委員会	10.28	獣魂碑建立慰霊式典
3.29	共済契約者研修旅行	11. 1	第4回農協祭 (~2)
4. 9	防霜対策本部設置	11. 8	役職員バレーボール大会
5.16	米消費拡大運動 桜丘小おにぎり配布	11.17	共済契約者研修旅行
7. 6	地域消費者との懇談会	11.25	税務講習会 (~27)
9. 3	共済契約者研修旅行	<b>63年</b>	
9.21	役員と農青連との懇談会	1.23	講演会 21世紀の農業について
11.23	第1回農協まつり (~24)	1.31	食生活フォーラム 相馬の味料理コンクール
12.10	A T M稼働	3.18	講演会 (講師 宮崎久夫)
<b>60年</b>		3.19	コシヒカリ作付け推進大会
1.14	土壌診断室設置	4.11	防霜対策本部設置
2. 6	地域農業振興討論会	5.20	系統利用優秀 経済連表彰
7.16	観光事業功績 全国農協観光協会表彰	5.28	総合家具展示会 (~29)
7.31	養蚕部設立総会	6.29	稲作講演会
9.13	役員と農青連との懇談会	7.16	秋のプライダルフェー (~17)
11.11	合併促進協議会 (副霊山農協との合併)	8.15	市盆踊りパレード参加
11.23	合併20周年記念式		
11.23	第2回農協祭 (~24)		
12.10	合併予備契約調印式		

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
9.12	役員と農青連との懇談会	5.22	降電被害発生
9.14	農作物冷害対策本部設置	5.29	系統利用優良 J A 福島経済連表彰
10.21	米市場開放阻止相馬地方農業者総決起大会 (鹿島町)	7. 8	婦人部 組織活動体験発表相馬地区大会 フレッシュミセス主張コンクール (原町市)
10.29	第 5 回農協祭 (~30)	7.27	水稻黄化萎縮病発現地調査
12.16	養蚕部 全体研修	9.14	水稻適期刈取旗立て (初星・ひとめぼれ)
<b>64年</b>		10. 6	農青連の主張 組織活動発表会 (原町市)
1.22	瀬戸大橋と四国の旅	10.21	献穀田の稲刈り
1.24	コシヒカリ栽培講習会	11. 7	乳牛・繁殖牛共進会
2.19	第 1 回親と子の集い	11. 7	第 8 回 J A まつり (~ 8)
<b>元年</b>		11.16	中型バス購入
4.10	防霜対策本部設置	12.20	フレッシュミセス部会 親と子のつどい
4.24	市病害虫防除団総会	<b>5年</b>	
5.29	系統利用優良 経済連表彰	1. 9	米輸入自由化阻止決起大会 (原町市)
8.25	米穀全量集荷運動本部設置	5.18	系統利用優秀 J A 福島経済連表彰
9.21	役員と農青連との懇談会	7. 1	相双地方肉牛共助会 (~ 2)
10.14	ハトムギ製品国際見本市出品 (ケルン)	7.15	婦人部 活動発表大会 (原町市)
10.30	新高梨ゆうパック出発式	8. 9	不順天候対策本部設置
11. 4	第 6 回農協祭 (~ 5)	9. 3	相馬地方卸売市場内金融店舗オープン
12. 3	若妻会発足	10.23	第 8 回乳牛共進会
12.13	地域消費者との懇談会	11. 6	米市場開放県内統一街頭活動 (原町市)
<b>2年</b>		11.13	第 9 回 J A まつり (~14)
1. 6	春のブライダルフェー (~ 7)	12.24	救援米贈呈式
1.16	水田農業確立対策説明会 (~26)	<b>6年</b>	
2.16	繁殖部会・肥育部会合同研修会	2.12	自動車展示即売会・婦人服展示即売会 (~13)
3.22	組合長島 正一郎 逝去		
3.25	組合長島 正一郎 告別式		
6.18	島根県より優良素牛13頭導入		
7.21	婚礼家具展示会 (~22)		
10.16	役員と農青連との懇談会		
11. 2	農青連 米市場開放阻止キャラバン行動		
11.10	第 7 回農協祭 (~11)		
<b>3年</b>			
2.24	婦人部 結成25周年記念大会		
4. 1	米消費拡大運動展開 (米粉・米うどん購入運動)		
6. 3	食材宅配事業開始		
7.17	食材利用者懇談会		
9.11	低温農業倉庫落成式		
10.16	役員と農青連との懇談会		
10.26	米輸入自由化阻止街頭活動		
11. 9	第 8 回農協祭 (~10)		
11.26	農青連の主張 組織活動発表会 (原町市)		
<b>4年</b>			
1.25	京呉服展示会 (~26)		
3.30	青色申告会総会		



要求米価実現 倉庫前集会 (49年 7月)

## IV 資 料

(平成5年度末現在)

### 1 組合員

( )は戸数

正組合員		准組合員		合 計	
個人	法人	個人	団体	個人	法・団
3,747		715	49	4,462	49
(3,080)		(688)		(3,768)	

### 2 役員及び参事

代表理事組合長	横山卓三	理事	杉森万寿雄
常務理事	志賀清人	理事	村松征吉
理事	蒔田勇	理事	佐々木文朗
理事	酒井久雄	理事	山田一男
理事	久田好孝	理事	岡和田忠治
理事	只野孝一	理事	唯野哲夫
理事	杉本正彦	代表監事	鈴木登
理事	横山武彦	監事	渡部克雄
理事	阿部博信	監事	銚建孝
理事	福山正悦	監事	酒井弘
理事	寺島貞悦	監事	山田敏男
理事	荒信一	参事	石見清

### 3 職 員

男	女	計	うち営農 指導員	うち生活 指導員
94	44	138	8	1

### 4 協力組織

名 称	代 表 者	会 員 数
生産組合	門馬宇久	88組合
農青連	前川正人	202
婦人部	小島慶子	789
フレッシュミセス	千枝浩美	55
ふれ愛みどりの会	小島慶子	30
青色申告会		43
年金友の会	丹野利夫	973
共済協力委員		131
農機・自動車 情報連絡員協議会	只野義昭	20

### 5 生産部会

名 称	代 表 者	会 員 数
蔬菜部	渡部敏綱	300
果樹部	坂下五雄	91
畜産部	下浦照夫	111
花卉部	荒宣正	12
養蚕部	島崎正幸	19
ハトムギ生産組合	村岡茂	14

### 6 主な施設

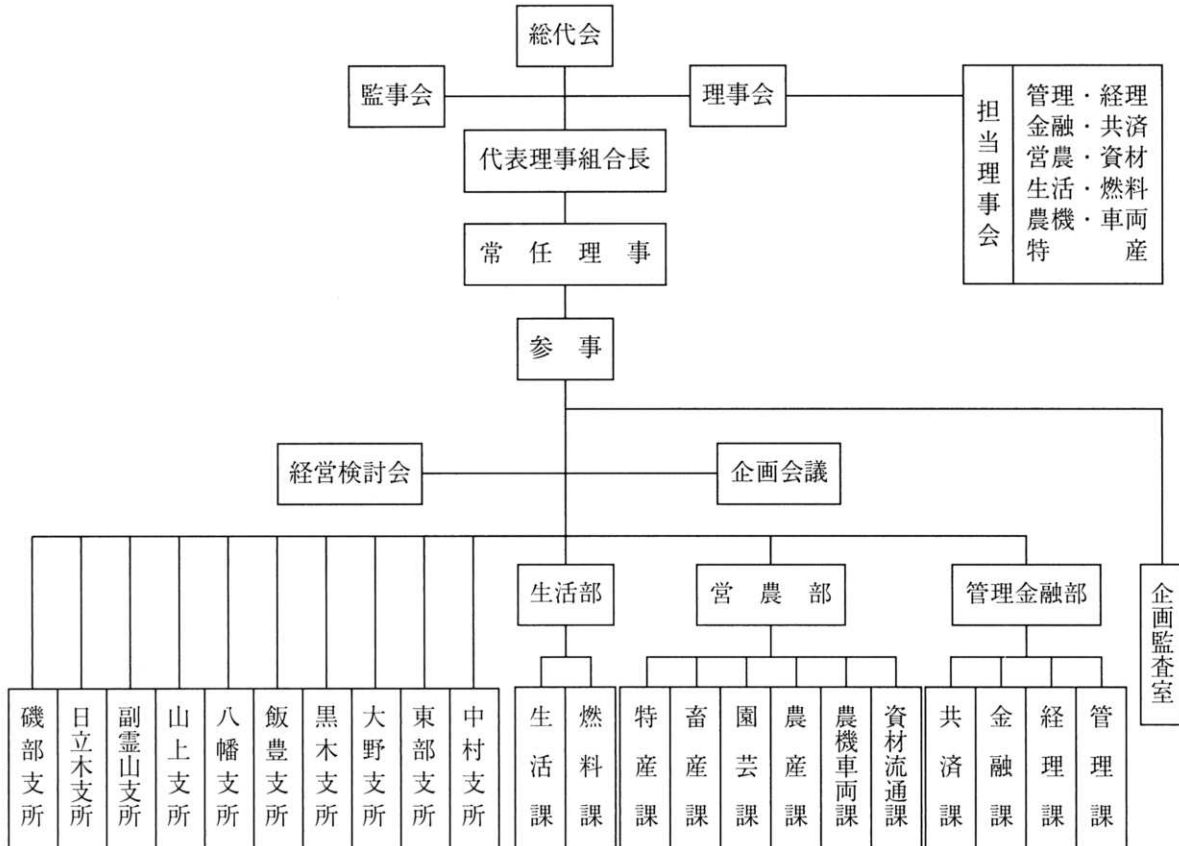
名 称	所 在 地
本所・中村支所	中村1丁目15-5
総合研修センター	馬場野字岩穴前198
東部支所	原釜字細田241-1
大原 〃	石上字前田1-1
黒木 〃	黒木字町67-1
飯豊 〃	程田字明神前225-2
八幡 〃	坪田字道下7-1
山上 〃	山上字南田106-1
副霊山 〃	玉野字副霊山309
日立木 〃	赤木字寄井62-2
磯部 〃	磯部字大浜36-1
農機・自動車サービス センター	馬場野字雨田162
資材配送センター	〃 〃
第1給油所	〃 字福迫167
第2 〃	石上字豊田1-1
野菜集荷所	馬場野字福迫175
低温1号農業倉庫	日下石字諏訪30-2
低温2号 〃	小泉字根岸74
果樹共同選果場	磯部字大浜216
理美容所	中村1丁目7-2

### 7 歴代組合長・常勤理事・参事

組 合 長		常 務 理 事	
40～55	山田 登	40～45	今野 豊
55～56	横山 卓三	47～55	横山 卓三
56～57	島 正一郎	55～56	渡部 威
57～60	渡部 威	56～56	荒 幹彦
60～2	島 正一郎	56～57	阿部 正
2～3	酒井 久雄	60～2	酒井 久雄
3～	横山 卓三	2～3	荒 幹彦
		3～	志賀 清人

参		事	
40～48	石見 任宏	56～58	荒川 正義
48～48	藤沢 義美	58～63	岡和田忠義
50～56	島 正一郎	2～	石見 清

### 8 経営管理機構



### 9 合併前の歴代組合長

#### 相馬市中村農協

23～24	吉田 進	32～35	藤田 宣重
24～26	柴田 義政	35～40	酒井 忠
26～32	今野 耕作		

#### 山上農協

23～24	佐藤 覚	32～38	荒 安信
24～27	門馬 勇	38～40	佐藤 忠義
27～32	島 重徳		

#### 大野農協

23～31	横山 宗延	31～40	今野 豊
-------	-------	-------	------

#### 日立木農協

23～26	木幡 清	26～40	太田 宗慈
-------	------	-------	-------

#### 飯豊農協

23～26	稲村 利蔵	26～40	山田 登
-------	-------	-------	------

#### 磯部農協

23～26	佐藤卯太郎	34～40	菅野 貞雄
26～34	渡部 勝巳		

#### 八幡農協

23～27	新関 広	38～40	天野 利
27～38	三浦 斌		